

## ①自己紹介

生活クラブ山梨 理事長

20年前に大阪から山梨に田舎暮らしをするために引っ越しました。

自分の食べるものは自分で作らないと危機感を感じ、18年前から自然農で田んぼと畑を耕しています。山梨に引っ越しをしてすぐに生活クラブに加入し、理事を経て昨年からは生活クラブ山梨の理事長をさせていただいています。今年5月に食の大切さを伝え、人と人が繋がるコミュニティカフェたんぼぼ食堂を立ち上げました。

## ②Gsef 2016大会に参加しての感想

貧困問題、少子高齢化など様々な問題を抱えているのは日本だけではなく、世界各国も同じ問題に直面していることを知りました。そしてそれらの問題解決に市民、行政、研究者が同じテーブルを作り、取り組んでいることが報告され、共有することができました。日本は経済優先の政策ばかりが目立ち、これらの問題を解決する方法を自分たちで考え行動していかないといけないと実感しました。それはワーカーズやNPOなどの市民活動であることに間違いがないことを確信することができ、市民活動が自治体と連携することによって持続し発展することで、今の現状を変えていくことができることを学びました。生活クラブでは多くのワーカーズが活動をしています。そのワーカーズがさらに発展するためには中間支援組織を作り、自治体と連携することで地域を変えていくことができることは早急にできることだと思いました。

## ④討論の発言

私たちが参加した「ケベック州における社会連帯経済への融資の仕組み」のワークショップでは市民活動にファンドが投資をしたり、融資をするという仕組みがあるということでした。日本では助成制度はあっても市民活動に融資や投資をしてくれるところはないので、自分たちで市民バンクを立ち上げるしか方法はありません。こんなファンドがあれば市民活動がやりやすくなり、発展もしやすくなると思いました。もう一つ印象に残ったワークショップは「地域の再生における文化の役割」です。ヨーロッパやアメリカではアーティストへの支援が手厚いことを知りました。そして、アーティストの存在が地域のコミュニティの創造性を高め、経済の活性化を促進する役目であるとはっきりと位置付けていました。そして、ケベック州で芸術を支援する団体のアトリエを視察しました。日本では考えられないようなアトリエで素晴らしいものでした。芸術は、日本では特別なものという捉えられかたがされていますが本来は、身近にあるものだと思います。芸術によって感受性が育てられ、想像力が豊かになり、広い視野が持てると生きやすくなりことにもつながると思います。これからの日本に必要な2つのワークショップに参加できてよかったです。

## ⑤ビルバオ2018大会に向けての提言

第1回目から第2回目では参加する国や団体が増えていることから、この会議が必要とされていることがわかります。国際会議に参加することで世界の課題が見えたり、やるべき目的が明確になること、多様な解決に向けた取り組みを知ることができたので、次回も多様な人々の参加と交流に期待したいです。日本に帰って、いろいろな地域で老若男女に問わず市民活動が行なわされていることを知り、自分たちの地域のために市民が動き出していることに感動しました。次回のビルバオ2018には、是非、この方達にも参加して欲しいと思います。